

# ① 集 結

## 「高熊辻」



「高熊辻」付近

明治2(1869)年11月15日〔新暦の12月17日(金)〕、早朝から**多くの人が集まった場所**とされています。

当日、上野原でも同様に人が集まりましたが、「高熊辻」の一揆勢とは後に、加茂村で合流することになります。

「高熊」は現在テクノパークとなり地名が残っていませんが、もとは**高熊新田**と呼ばれる村が存在しました。

『有馬郡誌』(昭和4年)によると、寛文8(1668)年に下相野村から分属したとあります。しかし、明治7(1874)年に再び旧下相野村と合併し姿を消しました(市史第10巻 地理編)。

## 「相野辻」

場所の特定は困難ですが、おそらく「高熊辻」から道をまっすぐ下った、この付近ではないかと思われます。

11月15日の朝方、「西郷」周辺から人が集まった場所とされています。「高熊辻」に集まった人も、**丘を下ってここに合流**したと考えられます。

「相野辻」に集まった一揆勢は、その後手分けをして周辺の村々をまわり、「**(一揆に)罷不出候ハ、其家ヲツブス**」などと脅したとされます。その真偽は定かではありませんが、このような声に駆り立てられた者も大勢居たと思われます。そして一揆勢はますますふくれあがっていきました。



「相野辻」付近

## 上野原



旧三輪村忠魂碑付近

11月15日、「高熊辻」や「相野辻」に「西郷」の人々が集まったのに対して、「下郷」や「北郷」の人々が集まった場所とされています。これら2つの集団は、後に加茂村で合流します。

上野原は、その後もたびたび一揆勢に利用されました。

ひとつは16日(午前4時頃)、町方へ進攻する直前に、年貢の減免などを記した願書をここでしたためたようです。

もうひとつは、一揆が沈静化したかにもえた26日(18日との説もある)、上記の願書の履行について藩庁に不備があるとして、ここで改めて願書をしたためました。

三田城下に近い上野原の利用には、藩庁への威嚇という意味も込められていたと思われます。



上野交差点付近

## ② 藩知事・大参事との接触

### 旧加茂橋付近



旧加茂橋

国道176号線の青野川にかかる橋のすぐ上流に、現在も「加茂大橋」が存在します。近くには明和6(1769)年に建てられた道しるべがあり、古くからの道であったことがわかります。

「高熊辻」や「相野辻」からの集団と、上野原からの集団は、15日の夜、ここ加茂村で合流しました。

三田藩知事九鬼隆義(旧藩主)や大参事白洲退蔵(旧家老)は一揆勢を説得するため、夜五ツ時(午後8時頃)に加茂村に向かいました。

その際、一揆勢が(旧)加茂橋を越えないうち考えたようですが、九鬼と白洲が到着した時には一揆勢はすでに橋を三田町方面に越えていたようです。

史料によると一揆勢は説得に来た九鬼らを取り囲み、「どぶ盗人め」などといった悪口とともに石や瓦を投げつけ、九鬼は落馬し逃げ隠れ、いっぽう白洲は乗ってきた駕籠を壊されたそうです。



旧加茂橋付近の道標(明和6年8月建立) 頭に梵字。「右さい(所) 左きよ(水)」。



旧藩主九鬼隆義



白洲退蔵



小寺泰次郎

(写真:三田市教育委員会提供)

白洲は当時急進的な藩政を実施していましたが、一揆勢はとりわけ白洲と、また同様に推進者であった小寺泰次郎を非難の的としていました。一揆では「大鯛小鯛」を殺せといったスローガンがあったようです。白洲、小寺とも名前に(たい)が付くことを大小の鯛にかけたもので、「大鯛」とは白洲を、「小鯛」とは小寺を意味します。

このように一揆の後背には、ひとつに急進的な藩政への反発がありました。

### ③ 町方進攻前の腹ごしらえ

#### 行基堂



行基堂

川除の御霊神社の参道脇に、それはあります。

川除には奈良時代の高僧行基に関する民話が伝わっています。それは行基がこの地の治水工事をすすめたというもので(三田の民話編集委員会『三田の民話』上)、川除の人々の水に関する様々な祈りが行基堂に込められています。

夜八ツ半過(11月16日午前3時頃)に一揆勢は加茂村からここへやって来て、**三田襲撃の前の腹ごしらえ**をしたとされます。

実は一揆勢がここで口にした酒や飯は、**町方の商家からの贈り物**でした。これらの酒や飯には、「**進上 何屋何兵衛**」などと商家の名前を書いた立て札が付けられていたそうです。一揆勢が押し寄せることを事前に知った町方の商家が何とか自分の店を守ろうと、自らの名前を明かして酒や飯を贈ったのです。

一揆勢は贈られた飯を前に不満に思う商家の名前を見つけると、「**くさり飯不喰**」など言って田へ投げ捨てるなど、悪態をつきながら食ったとされます。

一揆勢はその後、夜七ツ過(11月16日午前4時頃)には上野原へと移動し、藩庁への願書をしたためることになります。

## ④ 三田城下へ

### 桜の馬場付近



桜の馬場付近

16日朝五ツ時頃（午前8時頃）、一揆勢は願書を渡すためここに押し寄せます。史料には「人数貳万人」とあり、実際の人数は定かではありませんが、相当多くの人々が押し寄せたことが分かります。

引き上げたのは四ツ半（午前11時頃）とされますから、約3時間にわたる混乱が、この周辺で続きました。

### 町方の商家

三田や三輪の多くの商家が襲撃にありました。町方の商家は自分の店を守りたい思いから、一揆勢に様々な対処をしました。鍵屋重兵衛の店では、一揆勢のために炊き出しを行っています。



旧三田陣屋

残された史料によると鍵屋では、11月15日（白米・酒・小煎魚）、16日（白米）、17日（白米・醤油・大根・ニンジン・味噌・木）などの諸品を、炊き出しのために買い求めています。そのかいあってか、鍵屋は襲撃の難を逃れることができました。

一揆勢が引き上げた後も、しばらく商家の困難は続きました。史料にはたびたび、現実にはない百姓集会の噂が記されています。依然襲撃におびえる商家の姿です。また襲撃をひどくおびえるうちは、農家の者は商家に「無理二ねぎる」といった有様でした。



鍵屋の跡（三田本町）